

在ペナン日本国総領事・町田です。

本年4月の総領事（館）活動報告をさせていただきたいと存じます。なお、これら活動の一部については別途総領事X、総領事館HP及びFBでも紹介しておりますので、併せ御笑覧ください。

在ペナン総領事館は、①日本人社会との関係構築／領事業務／日本企業支援、②日本の存在感広報のための広報文化・学术交流事業の実施・支援、③当地政治・経済・社会事情の把握を業務の3本柱とし、また、そのための業務体制の充実を旨としております。

ペナン外への「出張」等については、私自身はケダ州スンガイ・ペタニに参りました。当館館員も、適宜、業務上必要な出張を行なっております。その一つとして、例えば、矢間首席領事は27日、ペラ州タイピンの「東洋タイヤ」を訪問させていただき、操業の状況を把握させていただきました。

私共としては、北部6州の関係者・関係機関を幅広く訪問して人脈を形成し、当地事情をより深く詳細に理解していきたいと考えております。

政治・行政・経済・外交面では、

2日、ペナン州長主催のハリラヤ・オープンハウス（PICCAコンベンション・センター）に出席しました。同日、当地犯罪防止NGOであるCCPSS首席戦略アドバイザーのシア・コック・ヘン氏及びJAGAM北部支部長のシオン・チャム氏と懇談し、当地の犯罪防止の取り組みやCCPSSと当地日本文化行事との連携等について意見交換しました。3日、杉田定大・東京科学大学特任教授、小塩一・（株）HAYAコーポレーション代表取締役会長、松島大輔・金沢大学教授、田雑（たぞう）裕一・（株）庭建取締役、林ペナン日本人会会長等と懇談し、マレーシアの半導体産業、タイにおける自動車産業、今後の日本・マレーシア産学協力等について意見交換し、また、当方から、在ペナン総領事館の活動等について説明しました。5日、マレーシア・パキスタン連盟が主催したハリラヤ・オープンハウスに出席





と（改めて）意見交換することができるなど、有意義な夜でした。7日、ブライアン・タンMICCIペナン・北部会長（フマキラー社社長）とマレーシア

経済情勢等について意見交換しました（矢間首席領事同席）。フマキラー社は本年50周年を迎え、今年2月の天皇誕生日レセプションでは商品展示をしていただきました。イラン情勢によってマレーシア経済も悪影響を受ける中、フマキラー社のビジネスにも影響が予想されますが、殺虫剤・蚊取り線香において当地で唯一の「日本ブランド」であるフマキ



ラーを盛り立てるように努めたいと考えています。8日、ペナン州長を招いたペナン領事団会合（夕食会）に出席しました。9日、FMM（マレーシア製造業連盟）北部会長のダトスリ・リー・テオン・リ氏と懇談し、マレーシアの政治経済事情について意見交換しました。10日、ペナン州政府EXCO（閣僚。貿易及びコミュニティ連帯担当）であるゴー・チューン・アイク氏と懇談して同氏の職務について聴取し、また、日本・ペナン関係の更なる振興等について意見交換しました。また、同日、ペナン州議会議員のガイ・シャオ・ルー



ン氏と懇談し、同氏が委員長を務める州議会「州と連邦の関係に関する特別委員会」の議論の進捗状況について聴取し、また、日本・ペナン関係の更なる振興等について意見交換しました。14日、前ペナン州首席大臣であるリム・グアン・エン氏（連邦議員兼任）と懇談し、日本・マレーシア／ペナン関係、マレーシア政治経済事情について意見交換しました。15日、旧知であるペナン州政府EXCO（インフラ・輸送・デジタル担当）のザイルル・キール・ジョハリ氏に矢間首席領事と共に改めて表敬し、イラン情勢のもたらす当地インフラ事業等への影響、水資源問題等について意見交換しました。22日、当地タイ総領事及び次席と公邸にて懇談し、友好関係を深めました。23日、矢間首席領事及び南野領事と共に当地犯罪防止・防犯啓発NGOであるCCPSS（Crime Consciousness and Public Safety Society）のフォーラムに参加し、各種犯罪を防止するための様々な方策についての議論を聴き、また、

マレーシア警察副長官等の現役・元警察幹部等との関係構築を行ないました。

26日、ペナン市役所関係者、ペナン青年開発公社、中等学校生徒等120名が実施したガズンボ島（ペナン第1橋沖合の無人島）の清掃活動に「ピンク・ハイビスカス・クラブ」の山崎英美さんと共に参加しました。ガズンボ島には、各種プラスチックごみなどが多数散乱しており、2時間ほどで約800キロのゴミを収集することができました。私共としては、日本文化紹介などを一方的に行なうだけでなく、当地の社会問題についての貢献も強化していきたいと思っております。



30日、USM社会科学部のアズミル准教授等とマレーシア／ペナンの政治経済状況等について意見交換を行ないました。



今後とも、当地行政機関等との関係を深め、また、様々な人や組織を繋げることによって、当地の日本人・日本企業の皆様等の活動へのヒントをもたらすことができれば良いと思っています。

日本人社会との関係（出張部分除く）では、

9日、ペナン日本人学校の教頭先生等新教員お二方（4月4日着任）が



校長先生と共に総領事館に来訪されました。総領事館は、日本人学校が教職員・父母会・学校運営委員会の「三位一体」で適切に運営される中、政府支援をお届けする立場として、適切な距離を取った上で日本人学校に来できる限りの協力をすることを惜しみません。私共は、日本人社会の宝である児童・生徒の健全な育成が第一と考えています。

11日、ペナン日本人補習授業校の入学式に来賓として出席し、以下の通り挨拶を行ないました。

おはようございます。ただいまご紹介に預かりました在ペナン日本国総領事の町田です。

本日は、ペナン日本人補習授業校の令和8年度入学式にお招きいただきありがとうございます。今回、年長8名、小学生10名、中学生4名の皆さんが入学されると伺っております。おめでとうございます。



ます。

本日、西尾学校運営委員長、田中事務局長、先生方、また、児童生徒を支える保護者の皆様のご尽力により、このような立派な式典が開催されることに、心からの敬意を表します。

この春入学される児童生徒の皆さんを含め、ペナン日本人補習授業校の児童生徒の皆さんは、日本とマレーシアの友好を望む私たちの未来の希望です。月曜から金曜の間、インター校などでの勉強に加えて、最大では9年間の日本語での学びを続けていくことは、児童生徒の皆さんにとって、今後、計り知れない財産になることは間違いありません。マレーシア・ペナンという素晴らしい場所で、日本の文化を教え、児童生徒の能力を高め、社会に貢献する人材を育成していく。これはまさに崇高な取り組みであると思っています。

私も、アメリカ・ニューヨークに赴任した際には、現地の補習校に長女を通わせました。補習校で毎週土曜日に日本人の先生やお友達と過ごした2年間は、娘にとって大変大事な時間でした。

ペナン日本人補習授業校の児童生等の皆さんは、保護者の皆様の宝であるのみならず、ペナン日本人社会の宝であります。今後も、学校運営委員会・事務局、先生方及び保護者の皆様が三位一体となって、その宝を今後も守っていかれるものと確信しております。総領事館としても、政府支援をお届けするという立場から、力一杯協力いたしていく所存であります。

最後に、改めまして、令和8年度入学式にご招待いただきましたことに感謝を申し上げ、また、本日ここに参集された皆様全てのご多幸とご発展を祈念いたします。

令和8年4月11日 在ペナン日本国総領事 町田信也

14日、ペナン日本人学校の令和8年度入学式に来賓として出席し、以下の挨拶をいたしました。

ただいまご紹介に預かりました町田です。おはようございます。

本日は、ペナン日本人学校の令和8年度入学式にお招きいただきありがとうございます。今回、中学部9人、小学部8人の児童生徒の皆さんが入学されたと伺っております。おめでとうございます。

長い歴史を刻んだ旧校舎に昨年別れを告げ、この新しい校舎で再出発をした日本人学校ですが、ペナン日本人会 学校運営委員会、斉藤校長先生を始めとする教職員の皆様、また、児童生徒を支える保護者の皆様のご尽力により、このような立派な式典が開催されることに、心からの敬意を表します。

この春入学された皆さんを含め、ペナン日本人学校のすべての児童生徒の皆

さんは、私たちの未来の希望です。日本の教育課程による小学校、中学校の教育は、文字通り、「日本人を創る教育」だと私は思っています。日本人としての良き伝統を重んじ、児童生徒の能力を高め、社会に貢献する人材を育成していく。これはまさに崇高な取り組みであると思っています。

皆様

日本人学校は、先人の思いがたくさん詰まった、ペナン日本人社会の宝であります。そして、日本人会学校運営委員会、学校教職員及び保護者の皆様が三位一体となって、その宝を今後も守っていかれるものと確信しております。総領事館としても、政府支援をお届けするという立場から、力一杯協力いたしていく所存であります。

児童生徒の皆さん、日本を、そして、日本文化をもっと好きになってください。

最後に、改めまして、素晴らしい入学式にご招待いただきましたことに感謝を申し上げ、また、本日ここに参集された皆様全てのご多幸とご発展を祈念いたします。

令和8年4月14日 在ペナン日本国総領事 町田信也

14日、矢間首席領事と共に、タンスリ小西様を訪問し、日本人コミュニティの発展等に関する懇談・意見交換をいたしました。当地で50年のビジネス歴を有し、日本人会、日本人学校の立ち上げに尽力された小西様とは折に触れて意見交換をさせていただいています。今後とも連携していきたいと存じます。16日、ペナン州スブラン・プライの「Panasonic Automobile Systems



Malaysia」社に矢間首席領事と共にお邪魔しまし

た。ペナンにおいて長く操業され、また、雇用を含む当地経済に長く貢献されてきた同社の概要を伺い、現在のイラン情勢も含む今後の展望についてお話を伺い、また、工場を拝見いたしました。精緻な作業工程に大変感銘しました。ご多忙のところ、あ

りがとうございました。24日、クダ州スンガイ・プタニのGSユアサ・マレーシア社を訪問させていただきました。日系メーカー四輪及び二輪に鉛電池を供給する企業であり、その前身は元々1969年にマレーシアに進出されておりました。この数年間で、製造工程が縮小したということですが、長年における当地の雇用への貢献は巨大なものがあります。



28日、ペナン日本人会の定例理事会に出席しました。この理事会では、各
部会での報告が行なわれた他、日本企業の当地操業に関連した事項についての
意見交換や7月18日に開催される「ペナン盆踊り」についての意見交換がな
されました。当方からは、今後の政治情勢についてお話しすると共に、日本企
業の抱える問題について首席大臣など当地要人に共有することの重要性につ
いて述べました。

領事事務を始めとした日本人社会へのサービスは 総領事館業務の「一
丁目一番地」です。当地日本人コミュニティの皆様や来訪者には、警備担当官
から安全講習を随時実施しています。今後とも、皆様への治安情報の積極的な
提供に努めていきたいと存じます。また、日本人コミュニティと 当地 コミュ
ニティとの橋渡し、その 中での日本企業支援なども積極的に、かつ、日本企
業のご要望に添う形で実施して参りたいと存じます。

文化交流・報道・学術交流関係では、

4日、ジョージタウン内の「邱公司」における年次総会夕食会に館員ととも
に出席しました。2年連続です。「邱公司」の「邱」
は、ペナンの福建五姓の一つの氏族ではありません
が、唐末の人物を淵源とし、明代から福建の移民が東
南アジアに移住した中で、ある村の住民がペナンに集
住して立ち上げたのが「邱公司」です。2年連続でこ
の夕食会に各国総領事の中で唯一招かれたのは光栄な
ことです。8日、ピンク・ハイビスカスの山崎英美代



表が事務所にいらっしや

り、今後の同団体の活動についてお話を伺い、今後
の協力について意見交換しました。今年は、「よさこ
いパレード」が6月27日・28日の

「Festival Inspirasi Jepun」の一部になっているなど、
取り組みが拡大していることが特徴でした。日本文
化紹介や文化交流活動

は、日本政府・総領事館のみでできるものではなく、やる気のある個人・団体の自走性を尊重しつ
つ、広報などの面で連携をしていきます。同日、
バト・マウンの「戦争博物館」を訪問し、創設
者・館長のジョハリ氏の説明を受けました。この



博物館は、英軍の元要塞跡に建設されており、巨大な大砲が据えられた跡や地下壕の跡がそのまま残されていることが印象的でした。第二次世界大戦の事績のみを扱っていましたが、山下将軍等の日本軍を単純な悪者と扱っていないことも印象的でした。9日、マレーシア科学大学（USM）の芸術学部（School of the Arts）を訪問し、学部長及び吉岡講師（音楽担当）と懇談しました。この



懇談では、芸術学部の沿革・概要についてお話を伺い、また、日本文化とマレーシア文化の相互理解に向けて何らかの連携をしていく可能性について意見交換しました。また、伝統音楽の演奏・楽器の製造を行なう「人間国宝」ともお話をすることができました。11日、馬日協会（Malaysian Japanese Society : MJS）年次総会後の昼食会に出席して、MJSの皆さんと懇談・意見交換

しました。MJSは明年設立60周年を迎えるということであり、明年が総領事館開設50周年（日本・マレーシア外交関係設立70周年）であることも踏まえて、更に連携していきたいと思えます。同日、「HANABANA Hobbies」の主催による「Touch Grass Day」がENTOPIA

で開催されたのに参加しました。このイベントでは、「たま福」の川下有紀オーナーから本格的な薄茶を振る舞っていただきました。合気道無心会から派生したHANABANAの活動を総領事館としても支援していきます。15日、ペナン市内コムタ一脇の「Tech Dome」を訪問し、その内容の説明を受けました。10年前に設



立されたテック・ドームは当地の児童生徒に対する科学技術知識の普及に貢献しているようでした（VR経験ではF1で何回もクラッシュしてしまいました）。16日、FIT START社の



Dr.Syed Wakar 氏の来訪を受け、同氏の企画する国際的な交流行事の企画案について説明を

受けました。ペナンを国際的な都市として盛り上げようとする新たな企画であり、総領事館としては、企画の成熟を待って協力を検討したいと考えていま



す。17日、AOTS（財団法人海外技術者研修協会）研修同窓会主催のハリラヤタ食会に出席し、海外会員も含めて、同窓会会員との友好関係を深めました。現在、AOTSは（日本側の事情もあり）活動が縮小中ですが、現在で

も、日本との関係を大事に考えてくれており日本文化行事にも関与しています。ペナン社会で重きをなしている会員も多いところ、今後も関係を維持していきたいと存じます。19日、ペナン市内アヤル・イタムの「Sunshine



Central」で開催された「Penang Invitational Judo Championship」の式典に参加しました。この式典には、KLから青年・スポーツ副大臣が出席したところ、マレーシア政府の柔道に対する前向きな姿勢が窺われました。20日、ペナン市庁舎で開催された「ブルーサンタ」の記者会見
に出席しまし

た。「ブルーサンタ」は日本発祥の海洋環境保全の活動であり、一般社団法人「日本財団 海と日本プロジェクト」などが主導しています。ペナンでは、6月27・28日の「Festival Inspirasi Jepun」で開始することになっています。スポゴミ同様、日本発祥の環境保全活動が当地に導入されるのは素晴らしいことです。21日、国際交流基金KL事務所関係者とマレーシア北部5州（ペナン、ペラ、クダ、クランタン、トレンガヌ）に派遣された「日本語パートナーズ」9名の皆様が総領事館事務所に来訪されました。あと5ヶ月の当地でのお仕事を有意義に過ごしてい



ただくことを祈りつつ私からご挨拶すると共に、担当領事から総領事館事業の概要説明と安全対策について説明しました。同日、豊橋技術科学大学のリム・パン・ボイ教授が総領事館を訪問され、今後の豊橋技科大及び信州大学のマレーシア／ペナンにおける取り組みについて説明されました。青年交流・学術交流などについての多くの取り組みについて総領事館としても全力で支援していきます。同日、総領事公邸において、国際交流基金KL事務所関係者、「日本語パートナーズ（NP）」、当地での日本語教育に関わるか、関心がある団体・個人の皆様30人弱を招いて懇親会を実施しました。この懇親会では、基金・松永副所長（日本語教育担当）から基金の日本語事業についても詳細なご説明があり、また、NPの皆さんも交えつつ、当地での日本語教育について活発な



意見交換がなされました。25日、市内ホテルで開催された「Artisans International Penang (A I G)」の「Gold Threads Programme」イベントに参加



ました。A I Gは新型コロナが猛威をふるっていた2020年に、スラヤ・イブラヒム氏、折笠総領事（当時）夫人及び当時のインドネシア総領事夫人との間で構想されたチャリティーであり、2021年に開始されて5周年だということでした。

26日、Dewan Sri Pinang で開催された Penang Philharmonic Winds による「A Magical Philharmonic Winds」を鑑賞しま

した。このコンサートは映画音楽を中心としたものでしたが、締め「ハウルの動く城」の画楽曲が演奏されるなど、日本アニメの人気の窺われるものでした。



27日、「The Star」紙のアーノルド・ロー編集長、「ピンク・ハイビスカス・

クラブ」の山崎英美さん、キャノン・マーケティングのダレン・タン氏、高知大学の川竹氏と共に、6月に開催される「よさこいパレード」を皮切りにして、当地のメディア事情等について意見交換しました。また、文化事業の広報についての良いアイデアについて有意義な議論をすることができました。28日、日本私立大学協会（私大協）の皆様が総領事館に来訪されました。今回



のマレーシア訪問（クアラルンプール→ペナン）では、JAGAMのアレンジによって当地教育機関を訪問し、今後の私大協加盟の大学と当地教育機関との交流の可能性を探ることが目的であると伺いました。私学協の皆様等とは、29日、市内レストランで夕食懇談いたしましたが、その際に、ペナンの有力中等学校（チョンリン校）の校長先生と理事会メンバーと邂逅しました。私学協の小出事務局長が詩吟をうたい、チョンリン校側が校歌をうたうという文化交流の場になりました。

総領事館 としては今後とも、日本文化紹介及び日本・マレーシア 交流促進のために心を尽くす所存です。今後とも、マレーシアで日本を盛り上げていきましょう！

今後も、日本とマレーシア（北部6州）との間をより良く繋ぐことによって、日本人の皆様が安心・安全に、誇りを持って、意義深い生活・活動をされるよう、微力ながらも全力を尽くす所存です。今後とも、ご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

※以上の見解は、私個人のものです。